

1

指図書ごとに外注加工と段取作業を把握します。

ロット番号	A306	A401	A401-1	A402	A402-1	A403	A403-1	合計
前日繰越数量(個)	280	—	—	—	—	—	—	280
直接材料X消費量(個)	—	250	—	160	42	220	220	892
第1工程直接作業時間	—	174	34	108	30	153	149	648
第2工程直接作業時間	223	195	—	128	34	86	88	754
外注加工数量	()	()	()	()	()	()	()	()
段取作業時間	()	()	()	()	()	()	()	()

2

製造指図書別原価計算表を記入します。

- (1) ◎900円×()個=()円
- (2) (◎1,200円+◎1,800円)×()時間=()円
- (3) {◎1,500円×42個+◎1,200円×(30時間+34時間)+()時間}+◎900円×()個
 +◎1,800円×(30時間+34時間)}-◎()円×42個=()円
- (4) {◎1,500円×220個+◎1,200円×(153時間+86時間)+()時間}+◎900円×()個
 +◎1,800円×(153時間+86時間)}-◎()円×220個=()円
- (5) ()円
- (6) ◎1,500円×220個+◎1,200円×(149時間+88時間)+()時間+◎900円×()個
 +◎1,800円×(149時間+88時間)=()円

3

仕掛品勘定と仕損費勘定を記入します。

<仕掛品勘定の借方>
 直接材：◎1,500円×892個=()円

直接労：◎1,200円×(648時間+754時間+()時間)=()円

直接経：◎900円×()個=()円

製造間：◎1,800円×(648時間+754時間)=()円

仕損費：A401-()円+A402-()円=()円

<仕掛品勘定の貸方>
 仕損品：◎()円×42個+◎()円×220個=()円

仕損費：A401-()円+A402-()円+A403()円=()円

月末：A403-()円

製 品：貸借差額

<仕損費勘定の借方>
 仕掛品：仕掛品勘定の貸方・仕損費 ()円 →

<仕損費勘定の貸方>
 仕損品：仕掛品勘定の借方・仕損費 ()円 ←

損 益：A403()円

第1問

ベースとして製品1個あたり、1分あたりの貢献利益額を算定します。

	製品 α	製品 β
売価	()	()
直材	()	()
1個あたり	()	()

1分あたり

	製品 α	製品 β
現存	()	()
÷()分	÷()分	÷()分
=()	=()	=()
新型	()	()
÷()分	÷()分	÷()分
=()	=()	=()

第2問

1 制約条件の確認と各製品の単位あたり貢献利益を算定し、制約条件の単位あたりの貢献利益を算定します。

1. 制約条件の確認

()kg/個+()kg/個=()kg ()22,000kg
 ()kg/個+()kg/個=()kg ()21,000kg

2. 製品単位あたり貢献利益

	A	B
販	②()	②()
変	②()	②()
費	②()	②()
h	②()	②()
h	②()	②()

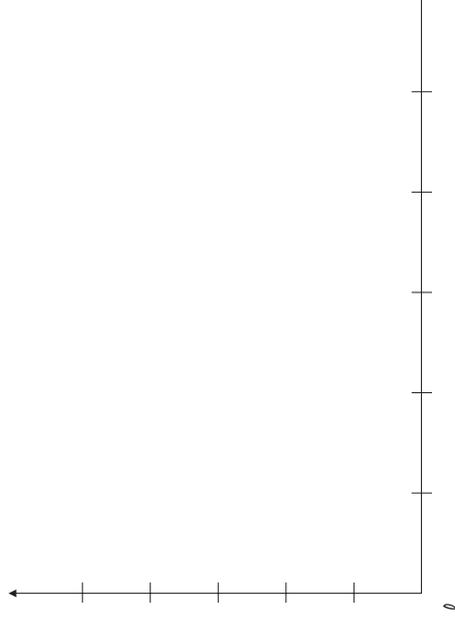
2

LPを使って最適セールス・ミックスを算定します。グラフは問2と問3でも使用します。

(1) 計算条件などの数式化

Max Z = Max (()A + ()B)
 ① 直材: ()A + ()B ≤ () ② 直作: ()A + ()B ≤ ()
 ③ A ≤ () ④ B ≤ () ⑤ A, B ≥ 0

(1) 数式のグラフ化



3

最適セールス・ミックスの変化点を、方程式を使って求めます。

()kg/個+()kg/個=()kg ()22,000kg
 ()kg/個+()kg/個=()kg ()21,000kg

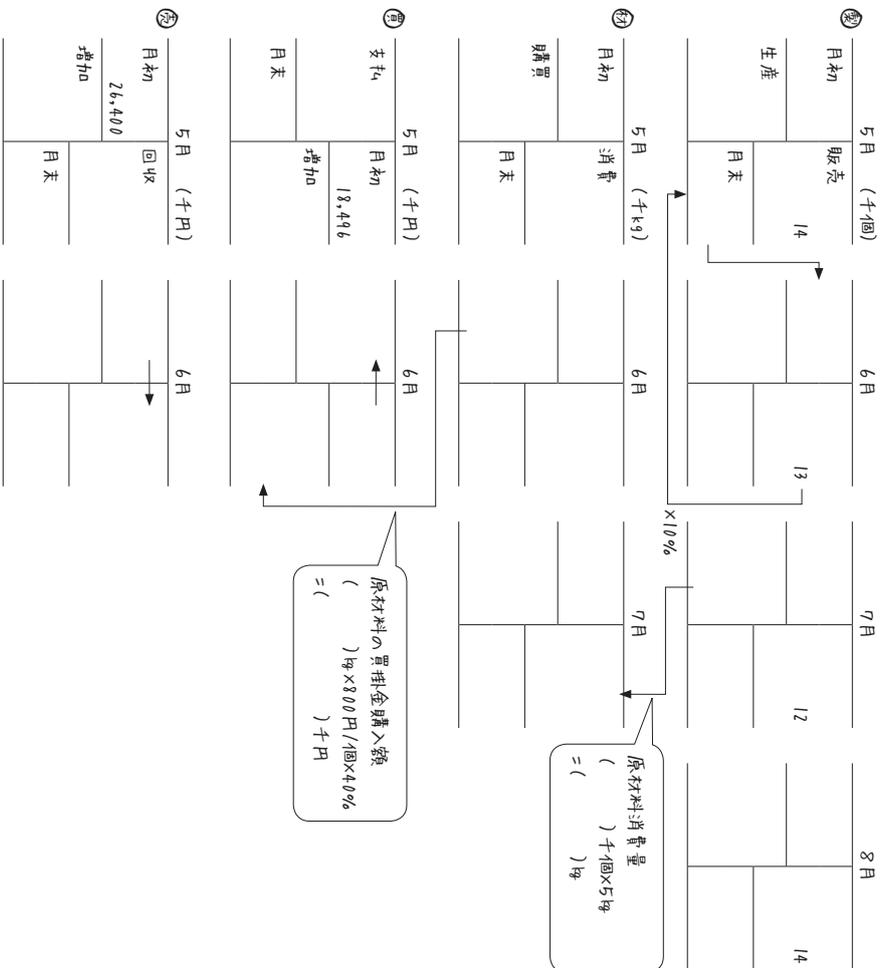
x < ()円

4

新たに条件を加えた数式を作り、グラフを書き直して、最適セールス・ミックスを求めましょう。

- ① 直材: ()A + ()B ≤ ()
- ② 直作: ()A + ()B ≤ ()
- ③ A ≤ ()
- ④ B ≤ ()
- ⑤ A, B ≥ 0

1 計画販売量から製品・原材料・買掛金・売掛金の月末残高を計算します。



2 現金の収支計算表から借入金と支払利息を計算します。

	5月	6月
目初		
現金売上	60,000	
売掛回収		
収入計		
現金仕入		
買掛支払		
変動費計		
固定費計		
土地		
支払利息		
支出計		
差引		
借入・返済		
月末		

価格アシストノート

第2予想 原価計算

1 差異分析のベースとなる投入量と販売量を整理します。

製品A		製品B	
期首 ()個	販売 ()個	期首 ()個	販売 ()個
投入 ()個	期末 ()個	投入 ()個	期末 ()個

2 販売量にもとづいて、ボックス図を用いて、販売数量差異をセールス・ミックス差異と総販売数量差異に分解します。

製品A予算歩利 ①()円	セールス・ミックス差異 ()千円	総販売数量差異 ()千円
販売数量 実 20,200個	()個	予 18,000個
構成割合 実 ()%	予 ()%	予 ()%
総販売数量 実 31,000個	実 31,000個	予 30,000個

製品B予算歩利 ②()円	セールス・ミックス差異 ()千円	総販売数量差異 ()千円
販売数量 実 10,800個	()個	予 12,000個
構成割合 実 ()%	予 ()%	予 ()%
総販売数量 実 31,000個	実 31,000個	予 30,000個

価格アシストノート

第2予想 原価計算

3 ボックス図を用いて、総販売数量差異を市場占有率差異と市場総需要量差異に分解します。

加重平均貢献利益 ③()円	市場占有率差異 ()千円	市場総需要量差異 ()千円
総販売数量 実 31,000個	()個	予 30,000個
市場占有率 実 ()%	予 ()%	予 ()%
市場総需要量 実 ()個	実 ()個	予 ()個

1 連立方程式法による実際配賦額を算定し、勘定記入をします。

動力部=X
 格繕部=Yとおく、

	A	B	X	Y
() X	() X	4,133,200	2,189,000	
() Y	() Y	△X	0.08X	
		0	△Y	0

X=()Y+4,133,200

Y=()X+2,189,000

X=()

Y=()

2 単一基準・実際配賦による配賦額の算定をします。

実際配賦率: 2,386,980円÷1,490時間=◎()円

A製造部への配賦額: ◎()円×894時間=()円

B製造部への配賦額: ◎()円×596時間=()円

3 単一基準・予定配賦による配賦額の算定と差異分析

変動費率: 1,440,000円÷1,500時間=◎()円

固定費率: 960,000円÷1,500時間=◎()円

予定配賦率: ◎()円+◎()円=◎()円

A製造部への配賦額: ◎()円×894時間=()円

B製造部への配賦額: ◎()円×596時間=()円

予算差異: ◎()円×1,490時間+960,000円

= -2,386,980円=()円

増率度差異: ◎()円×(1,490時間-1,500時間)

= ()円

4 複数基準・予定配賦による配賦額の算定と差異分析

A製造部への配賦額: ◎()円×894時間+()円

= ()円

B製造部への配賦額: ◎()円×596時間+()円

= ()円

予算差異: ◎()円×1,490時間+960,000円

= -2,386,980円=()円

第1問

1 製品Bから得られる月間の販売収益を算定します。

$\textcircled{4,000}$ 円×()個÷()円

2 最終製品の月間生産量合計の減産量を算定し、費用の減少額を算定します。

製品B300個分の加工時間:300個× $\textcircled{3}$ 時間÷()時間
 製品Aの減産量:()時間÷3時間=()個
 月間生産量合計の減産量:()個-()個=()個
 直接材料費の節約額: $\textcircled{500}$ 円×()個=()円
 変動加工費の節約額:()円

3 製品Aの月間販売収益の減少額を算定します。製品Aの減産量を使って算定しましょう。

$\textcircled{2}$ 円×()個=()円

4 上記の計算結果をふまえ、受注案の採用可否を判断します。

差額収益:
 製品Bの販売収益()円-製品Aの販売収益()円
 =()円
 差額原価:
 原価節約額()円
 差額利益:差額収益-差額原価
 ()円-()円=()円

第2問

1 現在の製品Xの生産量を算定し、年間固定製造間接費の回避可能額を算定します。

現在の製品Xの生産量:()時間÷4時間=()個
 年間固定製造間接費の回避可能額:
 ()千円+()千円×50%=()千円

2 部品P 10個にかかる検収作業時間から、製品X 1個あたりに加算される検収作業時間を算定し、購入案を採用した場合の製品Xの生産量を算定します。

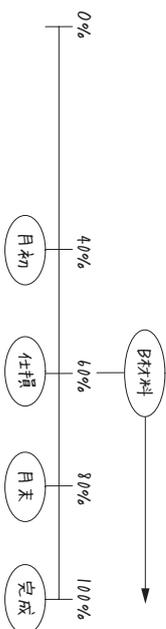
製品X1個あたりの検収作業時間:()時間÷10個×21個=()時間
 購入案を採用した場合の生産量:
 ()時間÷()時間÷(4時間+()時間)=()個

3 受注案の採用可否を判断します。

自製案	
収益	$\textcircled{30,000}$ 円×()個=()千円
変製	$\textcircled{2}$ 円×()個=()千円
変販	$\textcircled{300}$ 円×()個=()千円
賃利	()千円
固定	()千円
営利	()千円
変動製造原価(変製):	
部品P: $\textcircled{300}$ 円×3kg+ $\textcircled{500}$ 円×時間+ $\textcircled{700}$ 円×1個= $\textcircled{2}$ 円	
製品X: $\textcircled{2}$ 円×21個+ $\textcircled{800}$ 円×4時間= $\textcircled{2}$ 円	

購入案	
収益	$\textcircled{30,000}$ 円×()個=()千円
変製	$\textcircled{2}$ 円×()個=()千円
変販	$\textcircled{300}$ 円×()個=()千円
賃利	()千円
固定	()千円
営利	()千円
変動製造原価(変製):	
製品X: $\textcircled{5,000}$ 円×21個+ $\textcircled{800}$ 円×4時間= $\textcircled{2}$ 円	

1 仕損の発生点を考慮し、仕損費の負担関係を把握します。



2 仕損を考慮しない生産データの整理

		【問1】		【問2】
初	40%	1,200	$\times \textcircled{7,000}$	$\times \textcircled{\hspace{1cm}}$
A	(100)			
B	()			
加	()			
当				
A	1,300	80%	$\times \textcircled{1,400}$	$\times \textcircled{\hspace{1cm}}$
B	()	A	200	$\times \textcircled{1,100}$
加	()	B	()	$\times \textcircled{\hspace{1cm}}$
		加	()	$\times \textcircled{2,400 + \textcircled{2,100}}$
				$\times \textcircled{\hspace{1cm}}$

3 正常仕損費の算定と仕損を含む生産データの整理

1. 原価標準に加盟される正常仕損費：
 $(\textcircled{1,400} \text{円} + \textcircled{2,400} \text{円} + \textcircled{2,100} \text{円}) \times (\text{\hspace{1cm}}) \% \times 5\% = (\text{\hspace{1cm}}) \text{円}$
 仕損品/単仕材の製造原価 $\textcircled{\hspace{1cm}}$ 円

2. 生産データの整理

初	40%	1,200	$\times \textcircled{\hspace{1cm}}$
A	(100)		
B	()		
加	()		
当			
A	()	正・仕	60%
B	()	A	()
加	()	B	()
		加	()
		異・仕	60%
		A	()
		B	()
		加	()
		末	80%
A+仕	(200)	$\times (\textcircled{1,400} + \textcircled{\hspace{1cm}})$	()
B	()	$\times \textcircled{1,100}$	()
加	()	$\times (\textcircled{2,400} + \textcircled{2,100})$	()

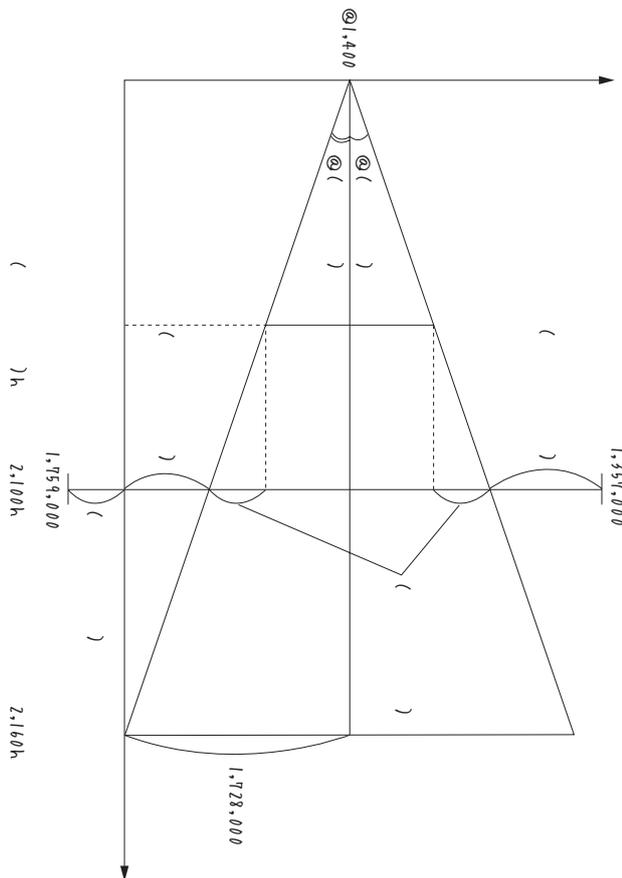
4 標準原価差異の分析

1. A材	2. B材
価()	価()
量()	量()
() kg	() 個
2,850kg	1,400個

3. 直労

賃()
時()
() h
2,100h

4. 製間



合格アシストノート

ウラ予想 原価計算

1

伝統的全部原価計算における各製品の製品単位あたり総原価と販売価格を計算します。

時間	製品X		製品Y		製品Z		合計
	()千円						
配賦額	()千円	12,000千円					
直材	()千円						
直労	()千円						
製間・販管	()千円						
総原価	()千円						
単位あたり総原価	()円/個						
単位あたり販売価格	()円/個						

2

資源消費量の単位あたりの金額を算定し、各コスト・プールのコストに配賦して集計します。

- ① 工場消耗品費 3,600,000 ÷ 12,000 = ③ ()円
- ② 間接工賃金 2,400,000 ÷ 5,000 = ④ ()円
- ③ 工場以外の労務費 1,350,000 ÷ 27 = ⑤ ()円
- ④ 水道光熱費 1,800,000 ÷ 5,000 = ⑥ ()円
- ⑤ 販売費および一般管理費 2,100,000 ÷ 100 = ⑦ ()円

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	合計
機械	()	()	()	()	()	()	()	()
段取	()	()	()	()	()	()	()	()
生産	()	()	()	()	()	()	()	()
材料	()	()	()	()	()	()	()	()
梱包	()	()	()	()	()	()	()	()
管理	()	()	()	()	()	()	()	()

合格アシストノート

ウラ予想 原価計算

3

A B Cによる各製品の単位あたり総原価を計算します。各製品のコスト・ドライバースト・ドライバーストと単位あたり金額を算定しましょう。それらを使って答案用紙の表をうめていきます。

	製品X		製品Y		製品Z		合計
	()時間						
機械運	()時間						
パッチ	()回						
仕様書	200時間	400時間	400時間	400時間	400時間	400時間	
出庫	()円						
出荷	8回	18回	18回	24回	24回	24回	
直接作	()時間						
機械運	()÷()	()÷()	()÷()	()÷()	()÷()	()÷()	
パッチ	()÷()	()÷()	()÷()	()÷()	()÷()	()÷()	
仕様書	()÷()	()÷()	()÷()	()÷()	()÷()	()÷()	
出庫	()÷()	()÷()	()÷()	()÷()	()÷()	()÷()	
出荷	()÷()	()÷()	()÷()	()÷()	()÷()	()÷()	
直接作	()÷()	()÷()	()÷()	()÷()	()÷()	()÷()	

コスト・ドライバースト単位あたりの金額